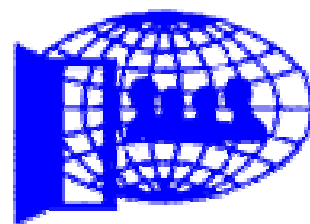


Servas Japan Tohoku



支部ニュース



No.75

2011年「年頭にあたって」支部長の挨拶	1
● T.S.支部長(N市)	1
サーバス受け入れ報告	2
● S.Y.さん(I市)	2
● T.M.さん(M県K町)	2
● M.S.さん(S市)	3
● O.M.さん(S市)	4
サーバス旅行記	5
● O.N.さん(S市)	エラー! ブックマークが定義されていません。
《特集1》山形新聞インタビュー	6
《特集2》海外ボランティアの活動を紹介	8
● T.N.さん(N県Y村)	8
新会員紹介	9
支部総会のお知らせ	9
編集後記	9

2011年「年頭にあたって」支部長の挨拶

● S.T.支部長(N市)

私がサーバスに入会した頃

以前にもどこかで書いたことがあると思うのですが、私がサーバスに入会したのは昭和46(1971年)年か昭和47年(1972年)であった。大学院を出て、S市の私立大学に勤務して1,2年後であった。日々の生活の中で確かなものをつかめず、ヨーロッパ旅行を計画し、そのとき旅行雑誌で知ったのがサーバスであった。当時お金もなかったので「無料」で宿泊できるサーバスは大きな魅力であった。旅行で実際利用出来たのはイタリアでの2組だけだったが、海外で同じサーバス会員と会ったことは実に楽しかった。このときの旅行については以前支部ニュースに書いたことがある。当時東北支部は会員がほとんどいなかった。今も会員であるN.T.(F市)、T.E.さん(Y市)はその頃からの会員である。当時東北大学に留学中のメキシコ人のTさんが支部長をしており、S市の会員は彼と私とTさんだけであったと記憶している。彼のアパートは私が住んでいた所と近かったので、何度か彼のアパートに行った。奥さんは日本人(K市出身)で、初めてトラベラーを受け入れたのもTさんを通してであった。初めての旅行者はオーストラリア人(無口な男性だった)で、イギリスからの移民であった。結婚し

て2年後家内とイギリス北部の彼の実家を訪問したことがあった。その頃全国に何名の会員がいたのかはわからないが、サーバスには口では言えない「熱意」があった。当時は外国人旅行者を受け入れる民間のボランティアがほとんどなかったせいも会員は皆会員であることを楽しんでいて、何よりも外国人旅行者が多かった。私が記憶しているだけでも東北地区に40名くらいの旅行者が訪れた年もあった。毎年30名位は東北地区に旅行者が来ていた。残念ながら旅行者は年々減少気味で、昨年も少なかった。会員の「善意」だけが頼りの組織であるサーバスにとってこの事態はとても残念なことであるが、こればかりはどうしようもない。当時の会長のAさんの自宅(東京)に寝泊まりして何度か国内会議を開いたこともあった。今から思えばこのサーバス初期の手作りの熱意がとてなつかしい。全国の会員と会うのも本当に楽しかった。その後全国会議も日本各地で行われるようになり、会議も本格的な会議になった。いつの頃からだったろうか、サーバスのNPO化の動きがあり、故Iさんを中心にしてサーバスも強固な組織作りを行うことになった。NOP化は結局実現しなかったが、サーバス会則を作り、会計もきちんとやるようになった。そうしなければNOP申請ができなかったからである。全国会議も以前の「家族会議」のような雰囲気はなくなり、文字通り「会議」になった。一度東北支部総会をT.E.さんの発案で山形で開いたことがあった。Mさんも仙台に来て間もない頃だったと思うが、そのとき集まったのはほんの数人であった。でも文字通り時の経つのも忘れて熱っぽくサーバスによる国際交流の話しをした。ユニークな会員もいた。Nさん(Y県)は英語は全く分からないが会員になり、積極的に旅行者を受け入れ、国際会議にも参加した。支部総会にもよく出席し、いろいろ体験談を語ってくれた。その彼女も今はいないが、私はいつも彼女はサーバスの原点であると思っている。言葉がわからなくても相通ずるところがある。人間性に富む旅行者だったらなおさらである。宿泊「無料」に引きずり込まれ、はや40年。私は今年3月定年を迎えるのだが、サーバスに「定年」はない。いましばらくサーバスを陰ながら支えていきたいと思う今日この頃である。

サーバス受け入れ報告

● S. Y. 木さん (F県I市)

受け入れ月日 平成22年4月30日～5月3日

トラベラー名 M. W. ポーランド 男性 32歳

東京の娘のところにいるとき、メールが入りました。あの時期、母の容体が安定していたので久しぶりに受け入れました。4月30日YのYから電車でいわき入りし、その日はほとんどおしゃべりでした。あまりにしゃべりすぎるので、私が私の英語耳はとても疲れたと言ったら笑っていました。我が家の次男と同じでとてもおしゃべりでした。5月1日は灯台や海へドライブに行き、夜は次男の飲み会に参加させ、居酒屋へ行かせました。10人くらいでとても盛り上がったようで、その夜も帰って来てから一人で話していました。5月2日は孫の初節句でしたので、一緒に参加してもらいました。20人の集まりで、特に我が家は声が大きいうるさいので、彼はなんと思ったことか。でも結構本人は楽しんでいるようでした。夜は帰省していた三男としょうぎをしていました。一回目はしょうぎで、三男の勝ち！二回目はチェスもどきでマイケルの勝ち！国際紛争にならずに済み、ホッとしました。5月3日は早朝皆で海つりに行ったようで、漁獲高はマイケルの17～18センチのあいなめ一匹でした。マイケルが帰ってから、帰省していた娘がオリーブ焼きにして一人でおいしい、おいしいと言って食べていました。後日、6日にはインドからメールが来ました。サーバスらしい雰囲気のとて感じのよい青年でした。

● T.M.さん (M県K町)

受け入れ月日 平成22年8月14日～15日

Mr. M. R. 大学教授 ニューヨーク人 そしてジャーナリスト、何とも忙しい訪問者であった。日本には度々来ているが、東北は初めての事であった。8月7日に連絡があり、13日にM.S.さん宅に宿泊した後に14日、15日と宿泊していった。14日はMさん夫婦に車に乗せられてやってきた。しばし、トラベラーは無視して久しぶりのMさん夫婦と



の会話を楽しんだ。とにかく『良くしゃべる人』との伝言を置いて M さん夫婦は忙しく帰られた。最初のうちは静かに話していたが、慣れるに従って、多方面の話題をしゃべることしゃべること。メインテーマは、ジャーナリストとして日本の各地をまわっての日本人、土地、文化についての印象であった。特に戦争と平和、貧困と贅沢については世界の状況も含め真剣に話し込んでいた。しかし、だんだんと話は広がり、グリーンツーリズム、農家民宿、温泉、有機農法、口蹄疫、政治、反社会的行為者、潔癖主義者、公害、スポーツ、昆虫、盆踊り、花火、食べ物、病気等々……延々と話し続けていた。英語の苦手な私は、話を途中で止めて何度となく辞書とにらめっこ。何とも消化不良な理解。それでも彼は話し続けていた。最後の方は理解できない私にいよいよあきらめたのか疲れたのか、横になって休む時間が多くなってきた。私も家族も大変疲れた 3 日間であった。

● M.S.さん(M県S市)

受け入れ月日 平成 23 年 1 月 23 日～26 日

韓国 トラベラー-B.N. 51 歳 (韓国年齢で 53 歳)

今年初めての受け入れです。B.N.さんは日本語と英語が話せる女性で楽しいおしゃべりが毎日あきれるほど続きました。

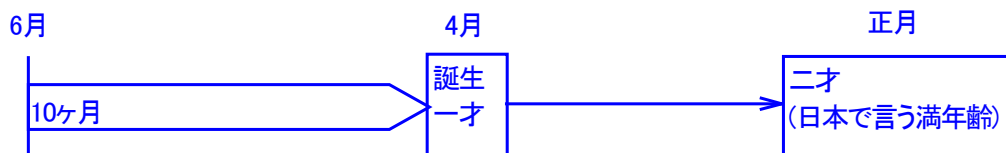
日本語は家庭教師につき長い間勉強し、川端康成などの文学書も読めるそうです。

「自分より年上の人を敬うこと」という儒教の教えを(彼女はクリスチャン)持っている女性で、私としてはかなりすぐつたい思いを味わいました。

韓国年齢について触れてみましょう?! なぜ実年齢に 2 歳プラスされるのかの B.N.さんの説明はこうです。公式な書類全ては日本と同じ年齢で書きますが、生活の中で韓国年齢が生き生き使われているそうです。B.N.さんに「娘さんは何歳ですか」と尋ねると「28 歳です、イヤ違います、26 歳です」といった具合です。日本も私の母たちの世代は「満年齢で 61 歳です」などと言っていたのですから、年齢一つとってもその変化は面白いことです。友人の R. 先生は韓国年齢にたいして「昔の韓国人は胎教をととても重要視していたからです」と意見をくださいました。



白楽珠 (韓国・釜山出身) 2011.1.23～26



次に日本にないが韓国にある兵役の義務についての B.N.さんの考えを書いてみます。

B.N.さんの 21 歳、大学生の息子さんが兵役の義務に就いて 6ヶ月になるそうです。兵役義務期間 2 年間で、一人息子の兵役の義務は当然のことと覚悟はしていたけれど、母親の B.N.さんにとってはやはり辛いものだそうです。

しかし彼女のご主人は「2 年間で息子は自立を覚え立派な男にもらえる」と言い、現に彼女も一ヶ月半に一回帰ってくる息子さんをご主人と同じ目線で見られるようになってきたと言います。もう一つ付け加えると韓国の若者の兵役義務中は戦闘のあるところには送られることはなく、その点は職業軍人の人たちとはハッキリと分けられていると説明してくれてほっとしました。

B.N.さんの娘さんは今年の 9 月からアメリカのコーネル大に留学することに決まっています。娘さんは結婚には関心は薄く、キャリアを積み大学教授を目指し努力をしているそうです。頑張っている子供たちに刺激され B.N.さんも今年の 3 月(韓国は新学期)からプサン大学大学院で英米文学を勉強することになっています。とても聡明で美しい女性、B.N.さんとの 4 日間はとても楽しいものでした。以上

● O.M. さん(宮城県仙台市)

受け入れ月日 平成23年3月4日~6日

ドイツ R.K (33歳男性)

彼は昨年大学院で生物物理学で Phd(博士号)を取得し、科学者として神奈川県にある研究所での共同研究のために2月22日から3月8日まで日本に滞在した。彼にとってこれが初めての日本訪問だが、彼はほとんどの時間を研究所の中で過ごし、週末の限られた時間を利用して我が家を訪れてくれた。初めての来日なのに、京都や鎌倉へ行くわけではなく、なぜ仙台なのか…。仙台で何をしたいのかと尋ねると、日本料理を覚えたい、そしてスーパーマーケットをガイドして、見たことのない食べ物を説明してほしいということで、観光地を訪れることなど全く興味がないようだった。しかも金曜日の午後まで仕事をしてから新幹線に乗って夕方我が家に着き、次の日一日滞在了した後、最終日は朝7時に発つということだった。そんなに時間に追われるスケジュールの中、わざわざ仙台まで来てくれて嬉しい反面、限られた時間をスーパーに行き料理を作って、そしてまた慌しく帰って行く…。そんなので本当にいいのだろうかと思し訳なくも思った。

私が彼と話して一番感心したのは、彼は Phd を取得した研究者であるにもかかわらず、その分野の仕事漬けになっていないことだった。彼は研究者である反面、自宅の畑で有機野菜を育てたり、養蜂をして蜂蜜を作ったりしている。最近と同じ敷地内に建つ築80年の古家に手を加え初めたところで、末はその家に住みたいそう。私が大学院で学位を取得しようとしていた時は、他の事など考える精神的余裕も時間的余裕もなく、ただ研究のことだけを考え、それだけに神経を集中しなければならなかったし、そこまでしなければ学位は取れないものだと思っていたし、そうするのが当たり前だと信じていた。博士論文を執筆中のいったいどこに土いじりしようなどという余裕が生まれるのだろうか…。彼いわく、1つのことだけを続けるのは楽しくないし疲れるし、効率も良くない。研究で疲れたら畑仕事をしてまたリフレッシュして鋭気を養うのだ。

彼はなかなかのフードチャレンジャーで、「飲み物は？」と訊くと必ず「緑茶」という返事が返ってくるし、2日目の昼食をとりに行った回転寿司屋でも、鯛や鯖などの青魚、鰻、エンガワなどに壮んにトライしていた。買い物の後で連れて行った手作りのログハウスでは、ボロボロに腐ったベランダを見て「今年の夏、もう一回家族と来てここに泊まってベランダ作ろうかな…」なんて言うので「冗談？それとも本気？」と訊くと「半分は冗談だけど半分は本気だよ。」と言っていた。果たして来るか？来たら凄いな。

スーパーでは日本の様々な葉野菜や豆腐の種類などに興味を示し、長芋を食べてみたいということで買って帰るが、摩りおろしているのを見て「誰がここに痰を吐いたんだ？」とブラックジョークを一発…。かけらを一切れ口に入れて「こりゃあ、気持ち悪いなあ…」と一言…。生卵を食べたことがあるか？と訊くと、妻の家の方では、子供たちが生卵に砂糖を入れて飲む(!)というので、とろろに生卵を入れたのを作ってみるけど、念のため芋煮汁の中に入れて煮たのと両方試してみようということになった。煮た方は、キク芋の味に似ていると言って食べていた。生の方はしばらく食べた後、「もうダメだ。ひどすぎる。もう食べられない。」と言って食べるのをやめた。じゃあ、これを焼いてオムレツにしてみようということになり、フライパンで焼いてみるとこれが意外にもなかなかいける。長芋の泡のせいでふわふわの食感になった。それならということで、私も主人も後に従い自分のをオムレツにして食べた。夕食後に、彼は我が家の狭いキッチンでアップルパイとチョコレートムースを作ってくれた。なかなか手際が良い。家では大体彼が料理をするのだそうだ。

翌朝、どうしても「はやぶさ」に乗ってみたいと言って発った彼から後日、仙台駅で撮った写真が送られてきた。なかなかおもしろい写真である。



サーバス旅行記

日本国内サーバスめぐりの旅 O.N. さん (S市)

2010年12月 日本サーバス巡りの旅のはじまり

去年の夏に初めてサーバスのトラベラーとなり、ヨーロッパの五か所でサーバスにお世話になりながら三週間の一人旅を経験してから一人旅が好きになっていました。その旅を終えた時には、「次回旅をするなら、絶対またサーバスを利用しよう」と心に決めていました。そのチャンスがまさに巡ってきました。ですから、「日本でもサーバスの方々を訪問していいのかな？」という想いが浮かんだことは、私にとっては自然な流れでした。駄目でもともと。早速事務の方に確認したところ、むしろ日本サーバスではそれを推奨しているとのこと。喜びいっぱいデリストをめくり、ホスト探しを始めました。

2011年1月29日 愛知県犬山市→小牧市:日本人のおもてなしの心

サーバス国内旅初日は、小牧市の T さん宅にお邪魔になりました。アメリカ人がステイしたときに教わったというメキシコ料理を奥様が教えてくださり、一緒に料理しました。

一番感動したのは、貸していただいたお部屋がサーバス仕様に整えられていたことです。部屋の隅の机には、帯がテーブルクロスのようにかけられ、和の雰囲気を感じ出しています。その机には、名古屋市内の英語版観光パンフレットが数冊置かれ、キャンディーポットも準備されていました。また、壁には振り袖がハンガーにかけられ、ディスプレイされていました。トラベラーが日本の文化を身近に感じながら、疲れを癒すための空間が見事に作り上げられていました。自分もホストになったら是非真似してみたいと思わせる日本人の「おもてなしの心」を学べ、とても有意義でした。



2011年1月30日 愛知県小牧市→名古屋市:つながる人・人・人

宿泊先の T さんご夫妻が名古屋市で支部総会にご出席なさるといことで同行させていただくことに。こちらの支部は活動が活発だと耳にしていたので気になっていました。支部長以外にも国内・国際会議への出席者数を増やし、国内のサーバス会員とつながりを深めようというお話もありました。今回の私の旅も同じ意味合いを持っていたかと思います。

お昼はサーバスの方の経営するオーガニックカフェでランチをしました。サーバスをされているシェフとおしゃべりしながら、彼女とその息子さんご自慢のランチをいただきました。名古屋や、次の目的地の伊勢市のおすすめを丁寧に教えてくださり、おすすめの場所めぐりができました。

夜は、1歳半のお嬢さんをもつ I さん宅へお邪魔しました。トラベラーが来る時には、I さんのいつもの生活に入ってきてもらうようにしている、ということで、私も娘さんと遊んだり、食器洗いを手伝ったりしました。お手伝いをしてほしいときには、はっきりと「食器を洗ってもらえますか？」とお願いしたので、有難かったです。日本人は、客人に手伝いをさせてはいけない、という感覚がありますが、私としては、お手伝いを頼まれたほうが自分も家族の一員として接してもらっている気がして嬉しかったです。



2011年1月31日 愛知県名古屋市→三重県伊勢市:着飾らないおもてなし

ステイさせていただいた Y さんとは、実は前日に名古屋での東海・北陸支部総会で既にお会いしていました。Y さんのお宅にお邪魔すると、Y さんのお母様がいらっしやったり、娘さんが訪ねてこられたりして、本当に Y さんの日常生活の中に私が入り込んだような感覚でした。誰もサーバスでの訪問者がいるからといって驚きもしません。何十年と数え切れないほどのトラベラーを迎え入れてきた実績なのだろうなと感じさせられました。

この夜嬉しかったことは、私の地元の山形の郷土料理である「ひっぱりうどん」を Y さん達に作ってあげることができたことです。サーバスの旅ではいつも夕食を用意してもらっていたので、訪問先で私が夕食を準備してそれを喜んで食べてもらうということは、とても誇らしいことでした。

2011 年 2 月 1 日 三重県伊勢市→奈良県奈良市:東北と関西のカルチャーギャップ

U さん宅では、サーバス旅行をするよりも、受け入れることが多いそうで、これまでのびっくりゲストの数々を紹介してくださいました。さらに、東北人の私に関西の雰囲気を感じてもらおうと、関西で有名な食べ物を次々に出してくださいました。一番驚いたのが、台所の隣のリビングにもガス栓があることです。関西では一般的だそうで、おそらくタコ焼き機をつなぐためではないか、ということでした。私の内でタコ焼きといったら電気タコ焼き機ですが、そんなものは見たことがない、と、鉄製の立派なタコ焼き機を見せてくださいました。国内でもカルチャーショックは受けるものですね。

2011 年 2 月 3 日 京都府京都市→東京都:「おもしろ」と「おもしろい」

東京に移動し、サーバスの I さんと一緒にランチをしました。彼女は以前の仕事を辞めてサーバスでアメリカを渡り歩くという壮大なアドベンチャーをやり遂げた方なので、お話を聞いていて飽きることがありませんでした。ほんの二時間弱でしたが、この方とは今後も交流を続けたい、とお話してすぐに感じました。もっと話を聞きたい、聞いてほしい、という方に出会えた素敵な瞬間でした。

夜は、別の I さん宅にお世話になりました。この日は節分だったので、お手製の太巻きでもてなしてくださいました。日本人でも、日本流のおもてなしをしていただくと感激するものです。特に現在私は一人暮らしで、日本の伝統行事をすることが少なくなっていたので、とても嬉しいことでした。I さんがお若い時に海外で勉強されていた時の熱意を聞くと、自分もおもしろくてもっと頑張らないとな、と思えました。

サーバス国内一人旅を振り返って

長いことサーバスをやっても日本人を受け入れたことは今までなかった、というのが、今回私を泊めてくださったホストの皆さんの意見です。私が日本人宅に泊まるというと、友人には「信じられない！」と驚かれました。同じ日本人同士考え方がよくわかるので、気遣いすぎて疲れるからだということでした。

確かに、日本の慣習をそつなくこなそうとすると疲れてしまうかもしれません。礼儀を尽くすのが重んじられるからですね。でも、私としては相手が外国人でも日本人でも全く違いはありませんでした。ただ単に、「私の会いたいと思える魅力的な人」に会いに行くという感覚です。人として本当に互いに想いやれれば気遣いはいらぬように思います。

今回の旅では、私の今後の生き方に大きく影響しそうな人たちとの出会いをすることができました。こうやって、様々な経験をされてきた人生の先輩、生き方を真似したくなる人と出会うことで、自分の今後の生き方が幅広く、深みが出てくるのではないかなと感じました。今後も日本人を受け入れてくださる会員さんや、日本人宅を回るトラベラーが増えることで、日本人同士の貴重な出会いも増えるのではないかと期待しています。



《特集 1》 山形新聞インタビュー

O. N さん(M 県 S 市)と M. S 事務局長(M 県 S 市)が山形新聞の取材を受け、記事になりました。実際に新聞に掲載された記事です。どうぞお読みください。

ありのままの家庭生活 `家族` になり体験

ホームステイで 世界を旅しよう

ホームステイを通して世界の人々と交流を深める国際民間親善団体「サーバス」。1949年にデンマークとアメリカで活動がスタート、日本では62年に誕生した。世界130カ国・地域に1万4000人以上の会員がいるが、東北の登録は決して多いとは言えない。サーバス東北支部は「観光旅行では分からない世界の現状を体験できる。ぜひ多くの人々に参加してほしい」と呼び掛けている。

サーバスは英語のSERVE(奉仕する)を意味するエスペラント語。第2次世界大戦後、平和を願う人々が互いに知り合うきっかけをつくろうと、小さなグループが活動を開始した。非宗教・非営利・非政府のボランティア団体で、会員の旅行者が受け入れ側の会員(ホスト)宅にホームステイし、ありのままの家庭生活を家族の一員として体験する。

日本には北海道、関東、近畿、九州など7支部あり、会員数は320人。東北新潟(新潟を含む)では現在、21人が登録。宮城が9人で一番多く、本県は3人が会員になっている。

東根市出身で仙台在住の高校講師奥山典子さん(26)は昨年夏、複数のサーバス会員宅にホームステイしながら3週間かけてヨーロッパ7カ国を旅した。「大学時代の友人に再会すると、現地の教育事情を学んでこよつと思つた。事務局にあるホストリストには生まれた年や仕事、興味、常の旅行では分からない、記載されており、教育関係者ホストを探しながら各ができた」。奥山さんは充



ホスト先の女の子と、折り紙のかぶとを作つて触れ合う奥山さん(左)＝フィンランド

県内会員3人のみ 国際民間親善団体が登録呼び掛け



ホストの紹介で、フィンランドの小学校の授業を見学。奥山さんは「通常の旅行では体験できない貴重な時間を過ごせた」と話す

実した「サーバス旅行」をも、シートが乾かないうちに次の旅行者を受け入れる振り返る。

しかし、東北の活動は全国に比べて低調という。東北支部の森幸子事務局長は「京都や奈良、北海道、九州などは受け入れ数が多いが、東北はあまり知られていないから少ない」と語る。東北から世界に旅行する会員も年間3、4人程度という。「かつては東北で022(378)5961。

「かつては東北で022(378)5961。合わせるサーバス東北支部

も、シートが乾かないうちに次の旅行者を受け入れるという時代があった」と森事務局長。世界平和の実現にはまず互いに理解し合うことが大切。ぜひ東北から世界に出掛け、さまざまな文化に触れると同時に、東北の素晴らしさも発信してほしい」と話している。問い

《特集2》 海外ボランティアの活動をご紹介

T. N. さん(N 県 Y 村)

ドミニカ共和国の体験

サーバス新会員 T. N.

2006 年 10 月 4 日から 2008 年 10 月 10 日までドミニカ共和国(人口約 900 万人)の首都サントドミンゴ市(人口約 200 万人)でシニア海外ボランティアをしてきました。自分のボランティア活動の一日を書いてみました。

ドミニカ共和国での指導科目は品質システムでした。これは ISO9001 の認証取得と定着の支援です。

製品では品質がよいとか悪いとか言いますね。製品の質や組織のサービスはそれを高めることが求められます。ISO9001 とは品質を高めるための仕事の仕組みです。そのような仕組みをある組織が導入する際に、また導入した仕組みを定着するように支援するのが私の仕事です。

国家職業訓練校と病院・診断センターで週 5 日 9 時から 5 時までの勤務でした。机とパソコンと書棚は職場から提供されます。赴任した職場はドミニカ共和国では一流の職場ですので、パソコンと携帯電話は日本と同じように設置されて、業務に使われています。



当初はスペイン語しか話さない上司とのコミュニケーションには疲れ、慣れてくるまでに時間がかかりました。会計年度は 1 月から 12 月までで、活動計画の予算措置を常に確認しておく必要がありました。予算がないので活動が実施できないということもありました。

職場での品質システムの支援の他に、サントドミンゴ自治大学とインテック大学、さらに民間 3 社で品質、5S(整理、整頓、清掃、清潔、しつけ)、改善、ISO9001 の講義をスペイン語で行ってきました。サントドミンゴ自治大学は、この国唯一の国立大学で 1538 年に設立された南米最古の大学でした。大学では、昼間、夜間、土日など多彩なコースがあり、働きながら勉強するようなシステムでした。

職場では、日本語を習いたいという同僚や市民のために、家内と週 1 回の日本語クラスを開講しました。そこでは、日本語の練習と日本の文化の紹介も兼ねて A4 で毎週テキストを作り、35 回開催してきました。

帰国前には職場でまとめのセミナーを 3 回連続講義して締めくくりました。自分の作成したテキストや副読本は職場の図書館に寄贈してきました。この経験を活かして、これからも、ボランティアの機会があれば、積極的に支援していきたいと思えます。

私の住むアパートは、サラソータ通りに近い、7 階建ての 4 年半前建築の建物でした。1 階は駐車場で、2 台分の駐車場がついていました。建物の中央にエレベーターがあり、左右に A と B に分かれています。各家庭はエレベーター側には基本的に窓がありませんので、残りの 3 方向には窓があります。しかし、全ての窓と入り口には鉄格子があります。

一日の活動は朝 6 時半に起床し、1 時間のスペイン語の勉強をして、朝食です。パンとサラダ、ヨーグルト入りのバナナジュース、サントドミンゴコーヒーが定番です。朝食後に、シャワーをして、8 時 40 分に運転手さんが迎えに来ます。職場への送迎は専属の運転手さんからしてもらいましたので、日本から持参した国際免許証を自分では 1 回も使う機会はありませんでした。もっとも、ドミニカでは早い者勝ちの運転で、とても安全に運転できそうも無かったです。9 時から 1 時ごろまでが仕事です。1 時から 2 時までが昼食です。これも 3 時ごろまでお昼休みのところもありました。

昼食は、職場の食堂や近くのレストランで同僚と一緒に食べるのですが、主食は米ですので、違和感無く対応できました。後で述べますがドミニカ定食かサンドイッチが多かったです。ドミニカ共和国では、昼食が一日で一番重きを置く食事、朝と夜は軽食で済ます人が多いです。

2 時から 5 時までには仕事です。会議や時間の約束もその日にならないと守られるかわからないようなこともしばしばで、それには本当にがっかりすることもありました。5 時には、運転手さんの迎えの車で帰り、夕食前に 1 時間のスペイン語の勉強を家内とやってから、夕食です。夕食は近くのスーパーや中華食材店から買った食材でほとんど毎日日本食でした。

夜は、日本に比べたら暗い電気で、あまり読書には適しません。もっぱら食事をしたり、テレビで映画を見て

いました。現地ではチャンネルは有線テレビを入れると70局以上あり、スペイン語、英語でふんだんに映画が見られました。10時過ぎには、シャワーを浴びて、蚊帳のつってあるベッドで就寝です。蚊取り線香もつけていました。

土日には現地の友人たちと食事をしたり、旅行をしたり、日本人のイベントに参加したり、観光に行ったりしました。外国ではホームパーティの習慣があり、現地の方々との交流では日本の料理に加え、現地で覚えたパエージャを何回も調理しました。

以上



新会員紹介

この度新しく以下の方々が入会されました。

- T.Nさん N県Y村
スペインに旅行した折、東海支部の会員の方からサーバスを紹介され、入会されました。
- S.Kさん S市W区
Sさんが勉強していた声楽の先生からサーバスを紹介され、入会されました。
- A.Tさん・Tさん S市A区
本誌でも紹介しました日本国内サーバスの旅をされたO.Nさんの紹介で入会されました。
- A.N.さん・Mさん S市I区
A.Tさん・Tさんのいとこ関係に当たる方です。

支部総会のお知らせ

毎年恒例のサーバス東北支部総会が今年も以下の要領で行われます。詳細な案内は近日中に皆さんのお手元へ届く予定です。今年も意義のある総会になるよう、多くの方にご参加いただきますよう、お願いいたします。

日時： 平成23年4月23日(土) 11:00~16:00

場所： 仙台市青年文化センター 会議室2 及び音楽スタジオ

編集後記

投稿して下さった皆さん、ありがとうございました。なお、投稿される時、掲載する写真の容量をできるだけ小さくしていただくようお願いしていますが、もし、やり方がわからない場合は、こちらで小さくすることもできます。ただし、その場合は、写真は文書に挿入せずに別のファイルとして添付して送信していただきますようお願いいたします。入れ込んでしまいますと、こちらで写真の編集ができなくなりますので、よろしく願います。また、もし今回の支部ニュースに記載されなかった記事を見つけた場合や、お気づきの点がありましたら、お知らせください。それでは、4月の総会で多くの東北会員の皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。最近投稿原稿が増えて、支部ニュースに記載するネタに事欠かない、嬉しい限りです。お陰様で支部ニュースがちょっと長めになってきたので、発行回数を増やすことも検討しようかと思っています。これからも、どうぞよろしくお願い致します。

O. M.